

宮古語大神島方言の助辞カミとターシのふるまい

金田章宏 (千葉大学)

はじめに 発表の概要

本稿は宮古語大神島方言の文法書を作成するためのパーツの一部を整理したものである。したがって、特段の主張は示さない。

大神島方言の助辞には、日本語「まで」に対応するカミとターシに、日本語と同様に格ととりたての用法がある。この用法は周辺の宮古語諸方言の対応形式にも比較的広くみられるものである。ただし、大神島方言のターシのほうはこの範囲に限られるようで、このあとの用法はみられない。

・ 空間

uma=kami] katiru.ここまで耕せ。

kama=nu pari]=ta:[si] a1[ka.あそこの畑まで歩こう。

・ 時間

jozi=kami] uma=N mati:ri.4時までここで待っている。

nnama]=ta:[se: ikSti]=tu u1.いままでは生きている。

・ マデとりたて

kari=kami=tu] klisi.あいつまで来た。(ハダカ主格)

kari]=ta:si=[tu] nara:si.あいつにまで教えた。(ハダカ与格)

大神島方言のカミにはこの用法のほかに、琉球諸語の焦点化助辞トゥ(大神島方言ではトゥ)の用法に似た対比・焦点化の用法がみられるが、この用法も周辺の一部の方言で確認されている。

ata:] arata [ki:=kami=tu] ja1.あしたじゃなくて、(まさに)きょうだ。

kama=N=kami=tu] a1 kumata. (間違いなく) あそこにあるはず!

大神島方言のカミにはさらに、のべたて文をはたらきかけ文にする＝述語動詞がのべたて形のままではたらきかけ文になる＝という用法がある。これは、少なくとも池間島方言などには存在しない用法である。(勧誘形等との違いは後述)

ma:takina] numa.いっしょに飲もう。勧誘形による勧誘

ma:takina=tu] num. (彼は私たち) いっしょに飲む。のべたて文

ma:takina=kami=tu] num.いっしょに飲もう。のべたて総合形による勧誘
[ma:takina num=kami=tu sq.いっしょに飲もう。のべたて分析形による勧誘

格の用法から、極端な例や焦点化などのとりたてまでの用法には、なんらかの連続性が読み取れるだろう。しかし、文のモダリティに変更をもたらすこうした用法に、それらとの関連性を見出すことは(今後の課題ではあるが)難しそうである。

1. 格の用法

範囲の限界点をあらわす。空間と時間が典型的だが、空間の延長として、さまざまな範囲の限界点もあらわす。

1. 1 空間の限界点

空間の開始点はカラ格であらわす。

ja:kara im]ka[me: u[te:.家から海までは遠い。
kamakara] umata:sina: assu.あそこからここまでやれ。いつも、毎日

★kami 空間

umakami] katiru.ここまで耕せ。
umakami] kate:ri.ここまで耕してくれ。
umakamina:] katiru.ここまで耕せ。いつも、毎日
umakamina:] kati:ri.ここまで耕している。いつも、毎日
umakamina:] assu.ここまでやれ。いつも、毎日
umakamina:na] assu.ここまでやれ。いつも、毎日
ja:kara im]ka[me: u[te:.家から海までは遠い。

★ta:si 空間

uma]ta:[se:] ute:ffa] ne:N.ここまでは遠くない。地図を見ながら。形容詞
uma]ta:[se:] u[te:ja] araN.ここまでは遠くはない。地図を見ながら。名詞
uma]ta:[se:] ute:.ここまでは遠い。地図を見ながら。
ka:ma]ta:situ asaka].あそこまで浅い。
ki:ja] Ntata:si pu:ripatu [tau]ka]. きょうはどこまで掘ればいいのか?
uma]ta:[si] puri.ここまで掘れ。
kamakara] umata:sina: assu.あそこからここまでやれ。いつも、毎日

umata:si] assu.ここまでやれ。

kamanu pari]ta:[si] a]ka.あそこの畑まで歩こう。意志勧誘

kamanu] parita:si[na:] a]ka.あそこの畑まで歩こう。毎回。

ja:kara im]ta:se: u[te:.家から海までは遠い。

im]ta:se: [mai]ka:.海までは近い。近くだ。

im]ta:se: [mai]kam.海までは近い。形容詞

imta:situ a]ki.海まで歩いた。到着

1. 2 時間の限界点

時間の開始点はカラ格であらわす。

kare: icizi]kara[tu] pak]mi.あいつは1時から始めた。

持続的な動作では限界点をあらわし(まで)、終了限界点を持つ動作や変化では限界点以前をあらわす(までに)。

★kami 時間

・限界点

jozikami] umaN mati:ri.4時までここで待っている。

jozikamina:] umaN mati:ri.4時までここで待っている。いつも、毎日

jozikami] umaNna: mati:ri.4時までここで待っている。いつも、毎日

・限界点以前

icizikami ku:. 1時までに来い。

icizikame: kisi:ri. 1時までには来ている。

pSsmakami] assu.昼までにやれ。

pSsmakamina:] assu.昼までにやれ。いつも、毎日

icizikame:] ku:ta. 1時までには来ないと。いけない。

限界以前に kamiN の例もあるが、N を入れないほうが自然である。

pSs]ma]kami[N] nausi.昼までに直しなさい。

★ta:si 時間

・ 限界点

jozita:si] umaN mati:ri.4 時までここで待っている。

jozikamina:] umaN mati:ri.4 時までここで待っている。いつも、毎日

pSsma]ta:si a[si:]ri.昼までやっている。昼まで継続。

pSsma]ta:si a[si:]rata.昼までやっている。昼まで継続。

a[tata:simai] a[ri:] kumata.あしたまでもある予定だ。はずだ。

nnama]ta:[se: ikSti]tu u₁.いままで生きている。

goro:ja nicijo:bi]ta:[si] s₁maN uris!iti: ikS kumatat]ta.五郎は日曜日まで島にいてから行く
そうだ。帰る予定だそうだ。

aNsi:ri]tu] nnamata:si[mai] k!ise:] ukaN.だから、いままでも来てはいない。だれも来ては
おかない。

nnamata:[si] ku:tata₁ pStumai ja:ne: ku:ti:tu u₁.いままで来なかった人も来年は来ようと
している。

nnamata:[si] ku:tata₁ pStumai ja:ne: ku:ti:tu u₁]ta.いままで来なかった人も来年は来よ
うとしているそうだ。伝聞

・ 限界点以前

icizi]ta:si ku:. 1 時までに来い。

icizi]ta:[se:] ku:. 1 時までには来い。

icizi]ta:[se: k!isi:]rata. 1 時までには来ていないと。いけない。

icizita:se:] k!isi:ri. 1 時までには来ている。

pSsmata:si] assu.昼までにやれ。

pSsmata:se:] assu.昼までにはやれ。

pSsma]ta:si[na:] assu.昼までにやれ。いつも、毎日

pSsma]ta:[si] asi:ki.昼までにやっておけ。

pSsmata:[si] asi uski:]ka]ta.昼までにやっておけ。厳重な言い方。

rokuzi]ta:[se:] ukitu s₁.6 時までには起きる。

rokuzi]ta:sina:[ja] ukitu s₁.6 時までには起きる。毎朝。

araN.zju:icizi]ta:[se: Nkitaka:] naraN.いや、11 時までに行かないといけない。帰らなくち
ゃいけない。

nnamakara] pak₁miri]pa] junaiNta:[se: tuk₁]mitu s₁.いまから始めれば、夕方までには終
わる。

限界以前に ta:siN の例もみられるが、N を入れないほうが自然である。

pSsɿma]ta:si[N] nausi. 昼までに直しなさい。Nを入れないほうがふつう。

ata]ta:si[N] assu. あしたのうちにやれ。あしたまでにやれ。

saNzi]ta:[siN] k'lisi:ri. 3時までに来ている。

pSsma]ta:[siN] assu. 昼までにやれ。完了させろ。

gozi]ta:siN ku:. 5時までに来い。

2. とりたてマデの用法

日本語のとりたてマデとおなじように極端な例であることをあらわす。他の存在を暗示、他との比較がある。

この用法にはカミもターシもあらわれるが、ターシのあらわれる範囲はかなり狭く、基本は主格、対格、与格の意味のハダカ形が使用され、格形式であらわれるのは共格の一部のみである。以下で☆があるのは、ターシにもある用法である。

2. 1 カミによる極端な例

★主格

○格表示なし☆

karikamitu kj]si. あいつまで来た。

karikamitu] k'lisi. あれまで来た。予定外。

mimkamitu] kauf nari. 耳までかゆくなった。

aNkamitu [q]ai. 私まで怒られた。

aNkamitu] jai. 私まで怒られた。

★対格

○格表示なし☆

ffari]munukami[tu] fai. 腐っているものまで食べた。

ffarimunu]kamitu [fai. 腐りものまで食べた。ムヌはのばさない。

tu:]kamitu [fai. しっぽまで食べた。

○格表示

vva: kanu fa:ukamitu nakastaqna]?: おまえはあの子どもをまで泣かせたのか?

×vva: kanu fa:uta:situ nakastaqna]?: おまえはあの子どもをまで泣かせたのか?

ffari:] munu:kami[tu] fai. 腐っているものをまで食べた。対格明示必要

ffari:] munu:kamitu [fai. 腐っているものをまで食べた。

ffari]munu:kami[tu] fai. 腐っているものをまで食べた。対格、伸ばしてもいい。

u[ri:kami] mu[ti ikati] na:? そんなものまで持っていくのか?

★与格

○格表示なし☆

aNsinu] tukumakami[tu a₁.こんなところまである。与格も可能
umakamitu] stirai u₁.ア、ここまで捨てられている。ゴミが
umanaki]kamitu stirai u₁.あちこちまで捨てられている。ゴミが
pakaka]mi[tu i]ki.墓にまで行った。

○格表示

aNsinu] tukumaNkami[tu a₁.こんなところにまである。与格なしも可能
umaN]kamitu a₁.ここにまである。

★ンカイ格

○格表示のみ

kariNkai]kami[tu] nara:si.あいつにまで教えた。
pakaNkai]kami[tu] iki.墓にまで行った。

★共格

○sui 格表示☆

karisui]kami[tu] appi.あの人とまで遊んだ。いやな人
karisui]kami[tu] fai.あの人とまで食べた。いやな人

★共格

○tu 格表示

karitukamitu] asp₁ta₁.あいつとまで。顔をしかめて言う。とりたてだが、使いにくいよう
だ。

[i: vva: karitukamitu asp₁[ta₁? え?おまえはあんなやつとまで遊んだのか!

[i: vva]: [karitukamitu] num[ta₁? え?おまえはあんなやつとまで飲んだのか!

★共格

○sa:ri 格表示

karisa:rikamitu] asp₁ta₁.あいつとまで。顔をしかめて言う。とりたて 樽
karisa:rikamitu] asp₁ta₁.まちがいなくあいつと。

★具格

○格表示のみ

unu] pausikamitu [ta]taki.この棒でまで殴った。

★動詞肯定形

mmakatu] faikami a₁.母が食べてマデある。

★動詞否定形

asi: fa:ta:kamitu] aspi:ɿ.昼飯を食べないでまでも遊んでいる。

nivvatakamitu] asi:ɿ.寝ないでマデやっている。

★動詞意志形

ffi fa:ti:]kamitu u₁.嚙んで食べようとマデしている。かみついてやろうとまでしている。夫婦げんかとか。

fa:ti:]kamitu u₁.食べようとマデしている。ふつう食べないもの。

fa:ti:]tu u₁.食べようとしている。単に

ffati:kami]tu u₁.降ろうマデとしている。降られたら困るのに！まったく困った雨だ！

ffati:]tu u₁.降ろうとしている。雲が出てきてポツポツと。

ukamati:kami]tu u₁. (①いま拝もうとしているノニ。祈ろうとしているノニ。<ナニして
るの、早くしないと！言い訳的に言う。今やろうとしてたのに！) ②悪いことをしてものす
ごく反省している感じ。

★修飾語☆

ここにみられるのは程度の修飾語だけである。カミが基本的だが、ターシの例もなくはない。情態の修飾語のほうは次に取り上げる焦点化になるようだ。

・モノの存在の量

iciro:ja] fa:nutu [mi]ta:ɿkami u₁.一郎は子どもが三人もいる。多い。

iciro:ja] fa:ja [mita:ɿ]kamitu [u₁.一郎は子どもは三人もいる。多い。tu が移動した！

usakana:kami]tu u₁.たくさんマデいる。こんなにいる。魚が潮だまりにいっぱい。驚き、意外性がある。程度の強調。

usakana:]tu u₁.たくさんいる。こんなにいる。魚が潮だまりにいっぱい。

xpi:maka:kamitu u₁.少ないことの強調には使えない！

usakana:kami]tu u₁.こんなにいる。魚が潮だまりにいっぱい。

usakana:na:kami]tu u₁.こんなにいる。魚が潮だまりにいっぱい。

usakana:tu] ɿunu u₁.こんなに魚がいる。潮だまりにいっぱい。

u[sakana:tama kamitu a₁.たくさんずつある。たくさんずつ配当する。

usakakami]na:? こんなにか？ 多い！

usakana:kami]na:.こんなにたくさんか。いただきもので。na:は強調か。

usakana:kamitu]na:? そんなにたくさんか?

・動作の主体や対象の量

fta:ŋkamitu] k'lisi:taŋ.二人まで来ていた。予定外。二人も
mita:ŋkamitu] k'lisi:taŋ.三人まで来ていた。予定外。三人も
ki:ja] aNsina:kamitu [k'Ssi] k'lisi.きょうはこんなにずつ釣ってきた。
miŋ]N:kami[tu] mi:3 回も見た。
suta: mi:kS]kamitu fai./[fai] aŋ.兄さんは三つも食べた。
mmakatu m:nakami] fai aŋ.母がみんなマデモ食べてある。

・変化の量

pStu]kSkŋNtu ic'likirokami u[taf] nari.ひと月に1キロも太った。
ic'likirokami u[taf] nari ne:N.1キロも太った。

・狭義の程度

uNskuna:kami[tu] jukuri:ŋ] na:.こんなにもひどく汚れているねえ。ひとつの鍋
uNskuna:kami[tu] jukurasi uske:ŋ] na:.こんなにまでも汚して置いてあるねえ。

2. 2 ターシによる極端な例

★主格

○格表示なし

aNta:situ] ŋai.私まで怒られた。
aNtata:si 私たちまで (怒られた)
kanu] upummata:si[tu] puturi.あのおばあまで踊った。
kanu] upummata:simai[tu] puturi.あのおばあまでも踊った。
kanu] upummata:sina:[tu] puturi.あのおばあまで踊った。いつも。ごくろうさん!
aka] kŋme:N vvata:si siwa asi ura[ta] urapamai.私のことであなたまで心配してなくていいよ。
aka kutu:si] vvata:[si] siwa a[si] ura[ta] urapamai.私のことであなたまで心配してなくていいよ。

★対格

○格表示なし

tu:]ta:situ [fai.しっぽまで食べた。魚の
ŋwunu tu:]ta:situ [fai.魚のしっぽまで食べた。

ffari iŋ munuta:situ [fai.腐っているものをまで食べた。

ffarimunu]ta:situ [fai.腐りものまで食べた。ムヌはのばさない。

unu] sarata:situ [fai.この皿まで食べた。皿を。対格相当

★与格

○格表示なし

aNsinu] tukumata:situ aŋ.こんなところまである。

uma]ta:situ aŋ.ここまである。～マデ！与格をとらない。

uma]ta:situ stirai uŋ.ここまで捨てられている。ゴミが

umanaki]ta:situ stirai uŋ.あちこちまで捨てられている。ゴミが

kari]ta:si[tu] nara:si.あいつにまで教えた。

aNsinu] tukumata:si[tu aŋ.こんなところまである。与格不可

agi [umata:situ] stirai uŋ.ア、ここまで捨てられている。ゴミが

★共格

○sui 格明示のみ★樽は不可

karisui]ta:si[tu] appi.あの人とまで遊んだ。いやな人

karisui]ta:si[tu] fai.あの人とまで食べた。いやな人

★修飾語

ここにみられるのは程度の修飾語だけである。カミが基本的だが、ターシの例もなくはない。情態の修飾語のほうは次に取り上げる焦点化になるようだ。

a[tu] tukapStuŋta:si[tu] kakaŋ.あと11日までもかかる。作業日数。

hjakumaNeNta:se: ikStu sŋ[ja]:.百万円までも行くんじゃないかな。費用が

hjakumaNeNta:si kakaŋtusŋ [ja]:.百万円までもかかるんじゃないかな。費用が

>e[: hjakumaNeNkaminal]:? え？百万円もの？

3. 焦点化～当為性

焦点化は、文の部分に焦点をあて、「ほかでもない、まさにそれである、まさにそうである」といった意味である。そこに焦点をあてることが目的であって、それ以外との関係＝対比性は表示されてもされなくてもいい。この意味は、琉球諸語に広くみられる焦点化助辞トゥに類似するが、大神島方言にはこれに対応するトゥも使用される。トゥには次にあげる当為性の意味はみられない。

焦点化の意味には、「まさにそうである、当然そうである、当然そうでなければならない、そうしなければならない」といった当為・義務的な意味が連続する。

当為性には主観的な当為性（思い込み的、自分の判断に自信がある感じ）もあれば、客観的な当為性（客観的な情報に基づいて主観を交えずにそれが当然であると判断）もある。

この用法では、焦点化が前面に出る場合もあれば、当為・義務性が前面に出る場合もあって、連続しているとみてよいだろう。この違いには、文の述語の違いによる偏りがみられそうだが、詳細は今後の調査に待ちたい。

文のタイプとしては、断定的に肯定、または否定するので、のべたて文が基本であり、たずね文、うたがい文、はたらきかけ文には使用されないようである。なお、確認文には使用されることがある。

以下では、はじめに焦点化と当為性の典型的な例をあげたうえで、述語の違いごとに整理する。

3. 1 焦点化の例

・主格

ki:]ja [ta:katu] k!isi:ta? きょうはだれが来ていたの？

>karikatu] k!isi:ta. あいつが来ていた。

>ta:]katuka[ju]:? だれ（が）なの？（本当にその人？）

>okarikakamitu] k!isi:ta. まさにあいつが来ていた。

[unu ju:pa: akakamitu turi] kSsta. この魚は（間違いなく）私が取ってきた。

・対格

unu ju:kamitu ara: turi] kSsta. （私は、ほかでもない）この魚をカミ取ってきたんだ。（ほんとうだ！）

・与格 N

umaNkamitu] ara: uskta:.[NtaNkaitu pe]ta]re:? （間違いなく）ここに私は置いた。どこに行ったのかな？

umaNkamitu] a]kumata.[NtaNkaitu ikatis]se:? （間違いなく）ここにあるはず！どこに

行ったのかな？

・ 共格 sui

[vva: tarututu aspi? あなたはだれと遊んだの？

>okarisuikamitu] aspɪtaɪ. (まさに) あいつと遊んだ。(だれ？としつこく聞かれたとき。)

vva]: [taru]tutu [pSsaraN]kai [ikStare]:? おまえはだれと平良に行ったの？

>okarisuikamitu] ikStaɪ. (まさに) あいつと行った。(だれ？としつこく聞かれたとき。)

・ 共格 sa:ri

[vva: tarututu aspi? あなたはだれと遊んだの？

>karisa:ritu] aspi. あいつと遊んだ。軽く答える。

>okarisa:rikamitu] aspɪtaɪ. (間違いなく) あいつと遊んだ。

・ 動詞

faitu uɪ]na:~? 食べているの？

>fai]tu uɪ. 食べている。

ma:Nti faitu uɪ]na:~? ほんとうに食べているの？

>ofaikamitu] uɪ. (間違いなく) 食べている！

onumkamitu] staɪ. (間違いなくちゃんと) 飲んだ。人称不問

kɪna:] tarube:ja arata [iciro:tutu num]taɪ. きのはタルベージャなくて一郎と飲んだ。

okɪnu: nivvatakamitu] astaɪ. きのは (間違いなくちゃんと) 寝ないでやった。<きのは寝ただろう！

kɪnu: nivvatatu] astaɪ. きのは寝ないでやった。

onumiti:kamitu uske:]ɪ. (まさに) 飲めと置いてある。(飲むのはあなたでもだれかでもいい。飲めと言ったのも、私でも誰かでもいい。この酒はなに？>だれでも来た人が飲むように置いてあるんだよ。)

numiti:tu] uske:]ɪ. 飲めと置いてある。(私か誰かが、あなたが飲むように)

・ 動詞意志形

osɪnati:]=kamitu uɪ. 死にそうだ。死にそうなまでの状態だ。(私は二日酔いで。力なく言う。)

oukamati:=kami]=tu uɪ. いま拝もうとしている。(<なにしてるの、早くしないと！に

対して言い訳的に言う。今やろうとしてたのに！

・動詞命令形

ovva=ka numiti:=kami=tu us]ke:ɲ. あなたが飲むように (私が) 置いてある。(飲んでほしいから。直訳は「あなたが飲めと」。)

・形容詞 (対比)

oure:] arata [kuri=ka=kami=tu] masɲ. それじゃなくて、(まさに) これがいい。

ouma=ju]a [kama=nu=kami=tu taka]kaɲ. ここよりは (まさに) あそこが高い。

・類似をあらわす形式

ojakuzaNsikami]tu uɲ. (あいつはまるで) 乱暴者だ。怒りっぽい。

jakuzaNsi]tu uɲ. (あいつは) 乱暴者だ。怒りっぽい。

okɲnu: nakɲNsikami]tu utaɲ. きのうは (まるで) 夏みたいだった。冬なのに。

kɲnu: nakɲNsi]tu utaɲ. きのうは夏みたいだった。冬なのに。

・副詞

okare: ikSmai] aNs!ikamitu jaɲ. あいつはいつも (まちがいなく) あんなふうだ。

kare: ikSmai] aNsi. あいつはいつもあんなふうだ。

・陳述詞

oma:Nti:kamitu] kSstaɲ. (あいつは間違いなく) ほんとうに来た。(＜あいつはほんとうに来たのか？)

ma:Nti:tu] numi. ほんとうに飲んだ。飲んだ瞬間。

・後置詞

vva: Ntau tamitu] aɲki:ɲ? おまえはどこを向いてゾ歩いているの? ★対格

>immu] tamitu aɲki:ɲ. 海を向いてゾ歩いている。★対格

>immutu tami] aɲki:ɲ. 海をゾ向いて歩いている。★対格

>oimma tamikamitu] aɲki:ɲ. まさに海をバ向いてゾ歩いている。

・コピュラ

onnama: nakSkamitu jaɲ. いまは (まさに) 夏だ。(なにを勘違いしてるか!)

nnama:] nakS. いまは夏だ。(ふつうに。)

○vva:kami:mi:] mina: [urikamitu] ja.あなたが探しているものは間違いなくこれだ。

○urikame:] araN. (確かに) これではない。まさに！ <uri=kami=ja

・ 対比の例

○kɪna:] tarube:ja arata [iciro:tukamitu] numta.きのうはタルベージャなくて(まさに)一郎と飲んだ。

kɪna:] tarube:ja arata [iciro:tutu num]ta.きのうはタルベージャなくて一郎と飲んだ。

○ure:] arata [kurikakamitu] mas.それじゃなくて、(まさに) これがいい。

kare:] arata [urikatu] mas.あれじゃなくて、これがいい。

○karikakamitu] k!lisi:ta.[ure:] ku:tatam. (まさに) あの人に来ていた。この人は来なかった。

○ara: saki:kamitu] numaN.私は(まさに) 酒は飲まない。(ジュースなら飲むよ。)

○ara: saki:jaripakamitu nu]matata.私は酒だからこそ飲まなかった。(ほかなら飲んだけど。)

○ure: iciro:]ja araN.[tarube:kamitu] ja.これは一郎じゃない。(まさに) タルベージャだ。(写真を見て。)

○ure:] ki:[ure: ki:kamitu] ja.それはきょうだ。それは(まさに) きょうだ。

○ure: ata:] arata [ki:kamitu] ja.これはあしたじゃなくて、(まさに) きょうだ。

3. 2 当為性の例

○atamai kSs kumatakamitu] ja. (あなたは) あしたも(当然) 来るべきだよ。(来なかったらひどいよ！)

atamai kSs] kumata. (あなたは) あしたも来るよ。(予定表を見て。単なる予定。)

○nivvi]kamitu u. (この時間だから当然) 寝ているはず。(自己判断。見るまでもなく当然。)

mme] nivvitu u. (あいつは) もう寝ている。(見てきて教える。)

ok!isikamitu] u₁. (連絡もあったし、もうその時間だから) 来ているはずよ。

klisi]tu u₁. (あいつは) 来ているよ。(見て。)

okSs kumatakamitu] jata₁. 来るべきだった。(なのに来なかった。なんてやつだ! 感情的。)

kSs kumatatu] jata₁. 来ることになっていた。(けれど来なかった。単なる予定。)

oata: ff kumatakamitu] ja₁. あしたは (当然) 降るべきだ。(これまでの状況を考えると。)

ata: ff] kumata. あしたは降る。(この様子だと。)

oatamai kSs kumatakamitu] ja₁. (私は) あしたも (当然) 来るよ。 <あした来るの? >

onumati:kamitu] u₁. [pe:pe:] ku:. (電話で) (当たり前だ、この時間なんだから) 飲もうと
している (に決まってるだろ) ! 早く来い!

onumati:kamitu] uta₁. (電話で) 飲もうとしていた (に決まってるだろ) ! (だけど、お
まえが来なかったから飲めなかった! / だけど、もし来てもおまえは飲めなかっただろ!)

okare: ku:N]kamitu ja₁. (当然) あの人は来ないんだ。(事情があるから。)

kare:] ku:N. あいつは来ない。

oaNs!i=kami=tu] ja₁. そうである。(あなたがそう思うのは当然である。)

aNs!i=tu] ja₁. そうである。

4. 終止のべたて形によるはたらきかけ文

冒頭にあげた例をあらためて確認する。

カミの当為性の用法から、はたらきかけの用法が派生する。当為性との違いは、人称制限があること、テンス対立がないこと、である。

ma:takina] numa. いっしょに飲もう。勧誘形による勧誘

ma:takina=tu] num. (彼は私たちと) いっしょに飲む。のべたて文

ma:takina=kami=tu] num. いっしょに飲もう。のべたて総合形による勧誘

[ma:takina num=kami=tu s₁. いっしょに飲もう。のべたて分析形による勧誘

述語動詞の形はカミの位置によって変わる。述語動詞以外のところにカミがあれば、述語動詞はそのまま使用され、述語動詞にカミがつくと最後の例のように分析形になる。

ここで問題になるのは、はたらきかけ文のために勧誘形があつて、それを使用すればふつうに勧誘文ができるのに、なぜ、わざわざのべたて文の形のままで勧誘しようとするのか、ということだろう。結果として、そこには微妙なモーダルな違いがあらわれていた。それは勧誘形によるはたらきかけ文にはない、聞き手に対する思いやりの気持の表現である。

話者の説明にあらわれるのは、「相手のことも考えて」や「相手を喜ばせようという気持ちで」といった表現で、単に一方的にはたらきかけるのではない、聞き手の気持ちに配慮した、それに寄り添ったはたらきかけの態度、あるいは、なんらかの感情的な要素があらわれやすい。

はたらきかけのおもなものは次のようなものだろう。

- ・意志 numati (一人称)
- ・勧誘 numa (numati) (一+二人称)
- ・うながし numtu mas (二人称・弱)
- ・命令 numi (二人称・強)

このうち、numatiの基本的な意味は意志だが、勧誘にも使用される。とくに、numatiに同意を求める終助辞i:がつくと(～しようね)勧誘を明示することになる。一方、numaが意志に使用されることはまれだろうか。うながしは、日本語にも大神島方言にも専用の語形(総合形、活用形)はなく、組み合わせ形式であらわされる。これらはいずれも単純な意志・勧誘・うながし・命令そのままである。

大神島方言ではこうした形態論的な語形・形式の違いによるムードの区別を、～kamitu num/numkamitu sɿ文によってもあらわしわけることができる。モーダルな意味の違いは場面によって、あるいは表情や口調などによってあらわしわけられる。

この形式があらわす意志・勧誘・うながし・命令には、なんらかのモーダルな要素が付加される。それは、聞き手への思いやりであったり、外的条件などによる当為性であったりする。聞き手に直接かかわらない話し手の意志の用法においてさえ、この形式を使用することで聞き手への思いやりがあらわされることがある。

NtaNtu] numatisse:. どこで飲もうかな。

>oumaNkamitu] num.

- ①ここで飲もうよ。勧誘。ここでいっしょに飲んでほしい。
 - ②ここで飲むよ。意志。あなたといっしょに飲みたい。
- どちらにもあいてを喜ばせようという気持ちがある。

○Nkikamitu] sɿ.

- ①もう帰ったほうがいいよ。もう帰りなさい。うながし。
- ②帰るよ。もう帰らなくちゃ。誘われたけど断わる。意志。

○nivkamitu] sɿ.

- ①もう寝ようね。うながし。
- ②もう寝るよ。意志。

4. 1 勧誘 numa (numati) (一十二人称)

ma:takinakamitu] num.いっしょに飲もう。

ma:takina] numati.いっしょに飲もう。

umaN] numa.ここで飲もう。

atamai] ma:takinakamitu ikɿ.あしたもいっしょに行こうね。

ma:takina [ika.いっしょに行こう。

ata: kitati] munu:kamitu fau.あしたは違うのを食べようね。(どう?と相手の気持ちを考えて言う。)

ata: kitati] munu: [fa:.あしたは違うのを食べよう。

naujutu] aɾi:ɿ.[umaNkamitu] numi:ɿ.なにを言ってるの、ここで飲んでいよう。<帰ろうかな。

faukamitu] sɿ.食べようよ。(遠慮しているような人に、少し強引に誘う。)

mi:]kamitu sɿ.見よう。

kamaNkamitu] mi:ɿ.あそこで見よう。

以下は焦点化や当為的な意味の例

atamai umaNkamitu] num.あしたも (ほかでもない) ここで飲もうねえ。

ma:takinakamitu] num. (当然) いっしょに飲もう。いっしょに。

4. 2 うながし numtu mas (二人称・弱)

ma:takinakamitu] asp₁.いっしょに遊ぶんだよ。子どもへのうながし。仲良くしなさいね。

ma:takinatu] asp₁[to:.いっしょに遊ぶんだよ。子どもへのうながし。仲良くしなさいね。

ma:takinakamitu] panas₁. (あなたはあの人と) いっしょにおしゃべりしたほうがいいよ。

ma:takina] asp₁tu mas.いっしょに遊ぶほうがいいよ。

unu] ₁wu:pa: [ni:ta]kamitu jaks/jak₁.この魚は煮ないで焼いたほうがいいよ。うながし。相手のことを考えて。一方的な命令ではない。

staNkaikamitu] usk₁. (上にのせないで) 下に置きなさい。やり方を指導する。今すぐでなくてもいい。うながし~命令。相手のことも考えて、そのほうがいいよ、という思いやりの気持ちがある。

ja:Nkikamitu] nivvi: ₁.家に行って寝ていなさい。

Nkikamitu] s₁ [i:.もう帰ろうね。帰ったほうがいいよ。酔っ払いに。

4. 3 命令 numi (二人称・強)

うながしと命令は連続していて、場面によって、また口調などによってあらかし分けられる。

vvamaikamitu] num.あなたも飲みなさい。(当然飲むべきだ。当為性に連続)

vvamai] numi.おまえも飲め。単純命令。

matikamitu] u₁.待ってろ。どこにも行くな。

mmepi:ma:] matikamitu u₁.もうちょっと待ってろ。(どこにも行くな。)

4. 4 意志 numati (一人称)

ma:takinakamitu] fau.いっしょに食べよう。

ma:takinakamitu] num.いっしょに飲もう。

umaNkamitu] mati:ɲ.ここで待っていよう。(私は。だから出かけていいよ。)

pi:maka:ja umaNkamitu] numi:ɲ.もう少しはここで飲んでいよう。

ja:Nkamitu] nivvi:ɲ. (このまま) 家で寝ていよう。<飲もうよ。

[ara: nivkamitu sɲ.私は寝る。

ara: nivkamitu sɲ] mme.私は寝る。

matikamitu] uɲ.待ってるよ。(どこにも行かないよ。私は。だから出かけていいよ。)

資料：日本語のスルによるはたらきかけの用法

・勧誘 (終助辞ゾ・ヨ)

気にする必要ねえよ！ ほら、さっさと●帰るぞ！

サツキ「そろそろ●帰るよメイ」

・うながし (ノダ形)

友達には●やさしくするんだよ

「あのね、いい大人はそんなことは●しないんだよ」と後ろの夫が言う。

・命令 (いますぐ)

ほら、さっさと●食べる。片付かないでしょ

さっさとやって、とつと●帰る！

・未来のうながしや命令はノダ形になるか

これに懲りたら今度から真面目に授業を●受けるんですよー

今度から真面目に授業●受けるんだぞ／うん！気をつけるよ

・意志

今度こそ絶対に●勝つ／今日も1日仕事を●がんばるぞ！

辞書等

●辞書等

狩俣 時空格 ガミ ウガンガミ大神まで、ピサラーミ平良まで

伊良部 時空格・とりたて ガイ、時空格 ターチ、動詞のスルマデはキ

佐良浜 時空格・とりたて ガミ、ターヒー

多良間 時空格・とりたて ガミ

水納島 ガミ ①～まで②～は。対比を表わす。

●池間島方言（伊良波盛男氏）

・空間 ガミ、ターヒー

umagami ここまで

umata:hi: ここまで

・時間 ターヒー★時間の限界にガミは使用しないようだ。

jusarabita:hi: umaN uri.夕方までここにいる。

saNzita:hi:ja ku:jo:. 3時までには来いよ。

saNzita:hiNna ku:jo:. 3時までには来いよ。

saNziNna ku:jo:. 3時までには来いよ。

・マデとりたて★ガミ、ターヒー不可

karimai ki: ui.彼まで来ている。

musɣmai fautai.虫まで食べた。

・その他の用法も★ガミ、ターヒー不可

sɣnaddi: hi: ui.死にそうだ。死のうとしている。

kju:ja h!itumi numadi.きょうはいっしょに飲もう。

●下地理則（2018）『南琉球宮古語伊良部島方言』くろしお出版（日本語訳のみ：加工）

4.3.9.限界格 =gami p.131

・「1年生から中学生まで gami ズラっとそろって勅語といった。

・いつまで gami も健康で、長生きしないとね。

★英語版ナシ・対比：（私は知らないが）老人たち gami は知っているだろう。

10.2.7.対比 =gami p.241

・「あんたも佐和田にいたの？」「（他の人は別として）私 gami は長浜に来ていたの」

・「もう、何を食べたか、そういうのも分かるわけないでしょう。お金がある豊かな者たち gami は、なんでも食べるだろうけど、私たちは（生活が）つらかったから。」

・「蛇じゃなくて、針 gami だよ。」

10.2.2.排他 =tjaaki 「だけ」

「そいつをだけ tjaaki 叱ったんだよ。」

「そいつだけ tjaaki を叱ったんだよ。」

★英語版：お前だけで行くな。

日本語資料の出典

気にする必要ねえよ！ ほら、さっさと●帰るぞ！

http://www.takuyo.co.jp/products/himehibi/himehibi_miniss1.html

サツキ「そろそろ●帰るよメイ」 <https://bokete.jp/boke/88042311>

友達には●やさしくするんだよ <https://note.com/hanex/n/n20fb7e1467c0>

「あのね、いい大人はそんなことは●しないんだよ」と後ろの夫が言う。

https://twitter.com/tea_itsuko

ほら、さっさと●食べる。片付かないでしょ <https://www.117.co.jp/sft/works/entry-43254.html>

さっさとやっ、とっ、と●帰る！

<https://jp.mercari.com/shops/product/jhiXRvWJpUNmAYEjGdLM7W>

これに懲りたら今度から真面目に授業を●受けるんですよー

<http://eternalking.blog.2nt.com/blog-entry-93.html>

今度から真面目に授業●受けるんだぞ／うん！気をつけるよ

<https://novel.prcm.jp/novel/N0yx6h9U3xsqAH0kOIg4/chapter/hy7qfzjBN5NlyxmETbr9>

今度こそ絶対に●勝つ <http://apg.blog3.fc2.com/blog-entry-676.html>

今日も1日仕事を●がんばるぞ！ <https://gakumado.mynavi.jp/freshers/articles/46541>